

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察注意報について

平成 28 年度病害虫発生予察注意報第 7 号を発表したので送付します。

---

## 平成 28 年度病害虫発生予察注意報第 7 号

- 1 作物名 かぼちゃ
- 2 病害虫名 ハモグリバエ類
- 3 発生地域 八重群島
- 4 注意報発令の根拠
  - (1) 石垣島における 1 月中旬及び 2 月上旬の調査の結果、発生ほ場率は 100%、被害葉率は 78.2% であり、葉内に生存幼虫が確認された寄生葉率は 36.0% と例年 (10.5%) より多かった (図 1、2)。
- 5 発生生態および被害
  - (1) 県内でカボチャを加害するハモグリバエ類は、侵入種であるマメハモグリバエ (図 3; 初確認 1993 年) とトマトハモグリバエ (同 1999 年) であるが、両種を外見で判別することは困難である。
  - (2) 寄主範囲が広く、ナス科、マメ科、キク科、ウリ科、アブラナ科、セリ科等の多くの花き・野菜類、広葉雑草の葉を加害し、光合成阻害や病害の誘発による生育遅延や減収をもたらす。被害がひどい場合は葉が枯れ上がることもある。
  - (3) 雌成虫は腹部の産卵管で葉に穴を開け、しみ出る汁液を摂食し、葉内に産卵する。
  - (4) 孵化した幼虫は葉肉を食害しながら移動し、線状の食害痕を形成する (図 4)。
  - (5) 老熟幼虫は葉内から脱出し、葉表面や土壌中で蛹化する (図 5、6)。
  - (6) 卵から羽化までの生育期間は 25℃ で 18~20 日であり、このうち幼虫期間は約 4 日間である。
  - (7) 土着天敵の寄生率が高く、国内では 10 種以上の寄生蜂が確認されている (図 7)。
- 6 防除上注意すべき事項
  - (1) 定植時に粒剤を施用する。
  - (2) ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
  - (3) 幼虫期間が短いため、葉表面に産卵痕や線状の食害痕が観察されたら速やかに防除を行う。
  - (4) 被害葉が多い場合は、体色の黄色い生存幼虫 (図 4) がいることを確認して防除を行う。なお、黒色に変色した幼虫は、天敵の寄生などで死亡した個体である (図 8)。
  - (5) 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。また、土着天敵保護のため、脱皮阻害剤等の選択性農薬を利用する。
  - (6) 周辺ほ場への拡散を防ぐため、収穫後の残さは速やかに片付ける。



図1 多発生したほ場

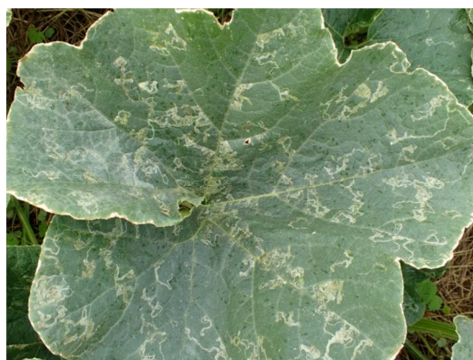


図2 被害葉

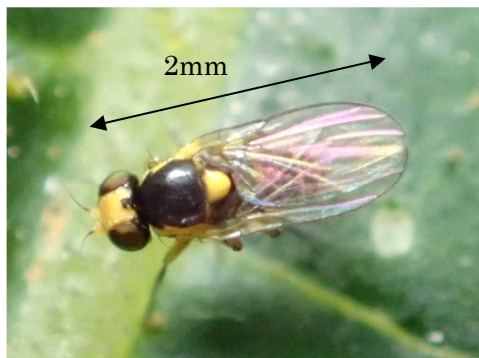


図3 マメハモグリバエの成虫



図4 生存幼虫 (体が黄色)

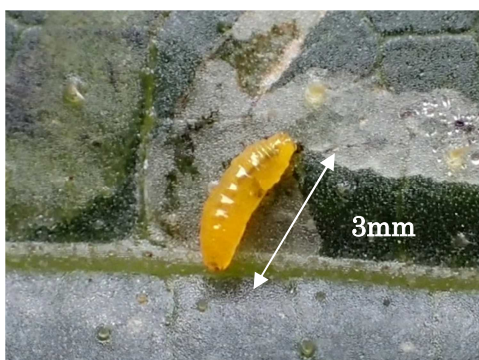


図5 葉上に脱出した老熟幼虫



図6 蛹

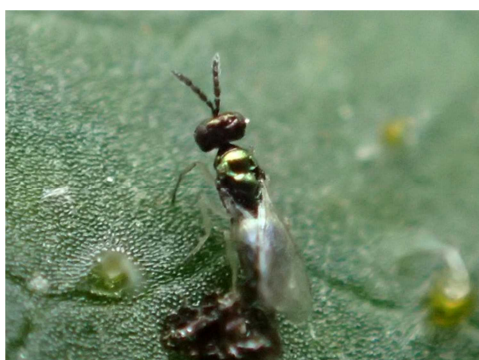


図7 土着天敵の一種

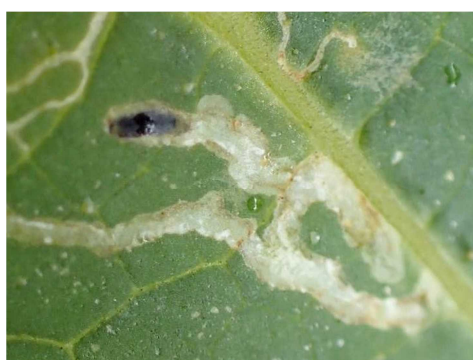


図8 死亡幼虫 (体が黒色)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0908-82-4933  
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>